

# 薬害教育教材に関するアンケート調査（令和6年度）結果

厚生労働省 医薬局総務課

医薬品副作用被害対策室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 薬害教育教材に関するアンケート調査（令和6年度）の概要

## 調査目的

高校1年生を対象とした薬害教育教材「薬害を学ぼう」について、教材のより有効な活用方法等の検討につなげるため、教育現場での使用状況、問題点等を把握する。

## 調査対象

全国の高等学校等（5,863箇所）

※高等学校（全日制・定時制・通信制）、中等教育学校後期課程・特別支援学校

※令和元年度調査までは中学校への調査であり、令和5年度から高等学校に変更

## 調査期間

令和6年6月～12月末

※さらなる回答率向上を目指し、HPや教材同封のリーフレットにアンケートへの協力を目立たせたほか、文部科学省のメールマガジンを活用し、回答への協力依頼を12月始めに送付した。

## 主な調査内容

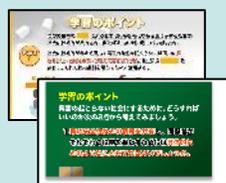
- ① 各教材の見やすさ・難易度・参考の程度
- ② 各教材の使用状況
- ③ 各教材を使用しない理由

## 調査方法

令和5年度と同様に、URLやQRコードを周知することで、webフォームから回答する方式とした。



用語 「パンフレット」  
…薬害を学ぼう  
冊子



「視聴覚教材」  
…薬害を学ぼうの動  
画教材（各校にDVD  
配布。厚労省の  
YouTubeでも公開）



「指導の手引き」  
…指導のポイント  
等を記載した教  
員向け参考資料



「実践事例集」  
…モデル授業の実  
践例をまとめた教  
員向け参考資料

# アンケートの回答状況と回答属性

## 回収率

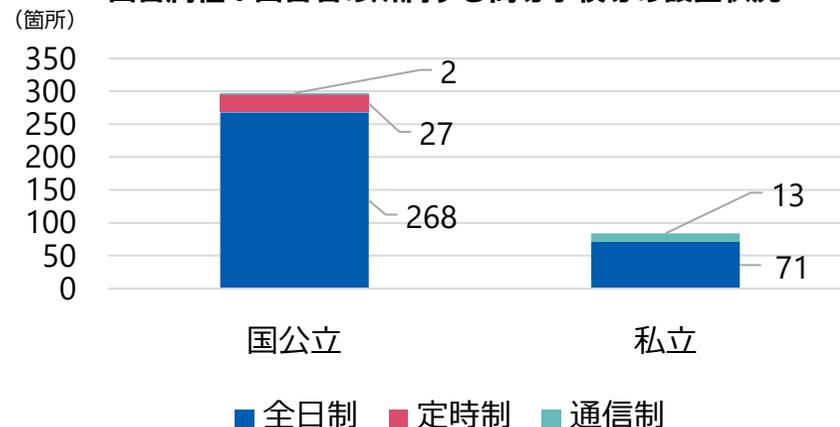
**6.5% (5,863箇所中381箇所 (407人)) (対高校)**

※その他、中学校教員からも16箇所 (16人) から回答あり

※参考：過去のアンケート回収率

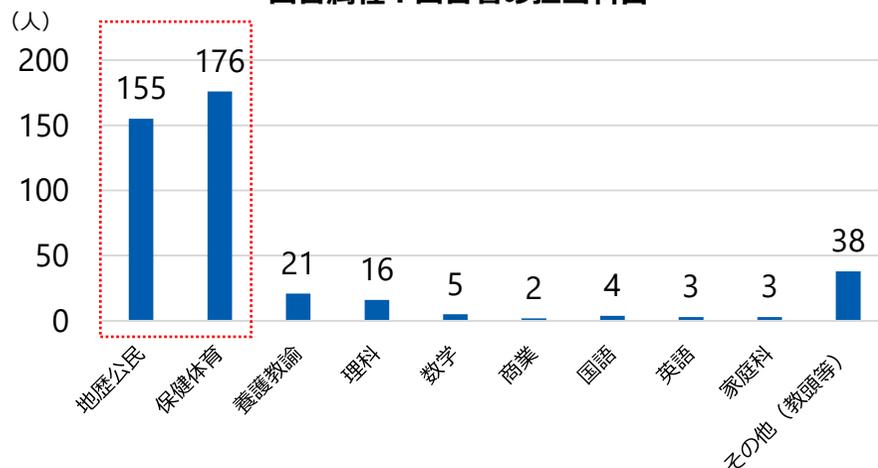
平成28年度	8.1%	(11,068箇所中 897箇所)	対中学
平成29年度	11.5%	(11,058箇所中 1,268箇所)	対中学
平成30年度	10.0%	(11,273箇所中 1,138箇所)	対中学
令和元年度	4.5%	(11,226箇所中 507箇所)	対中学
令和5年度	3.4%	(5,867箇所中 200箇所)	対高校

## 回答属性：回答者の所属する高等学校等の設置状況



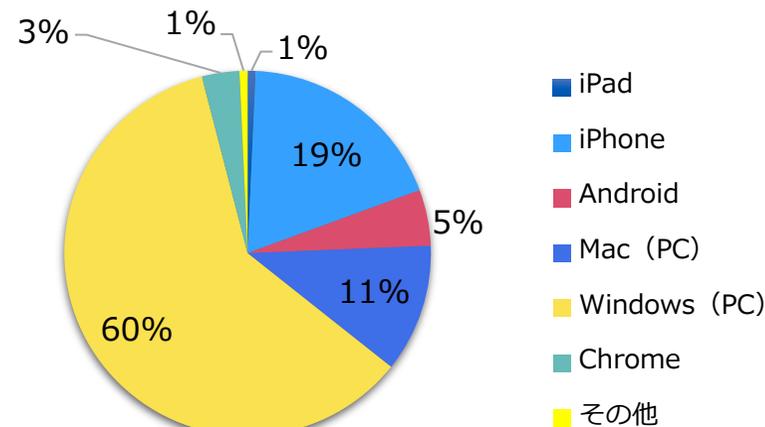
※同一学校の所属で複数人から回答があった場合は、原則、重複を排除しているが、回答者が同一学校の所属であっても担当する運営状況が異なる場合 (例：全日制と定時制が両方ある学校) は排除していない。  
※中学校は除く。

## 回答属性：回答者の担当科目



※中学校を含む。

## 回答者が回答した際に利用したツール



※中学校を含む。

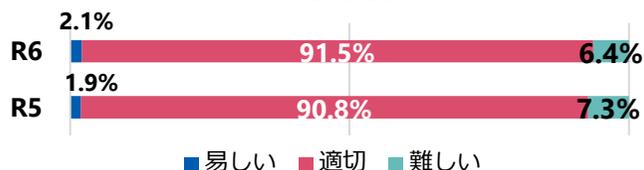
# アンケート結果（各教材の難易度／見やすさ／参考の程度）

- 各教材の難易度、見やすさ、参考の程度については、概ね高い評価を得られている。
- 指導の手引き・実践事例集については、「大変参考になった」の割合が昨年よりも若干上昇。

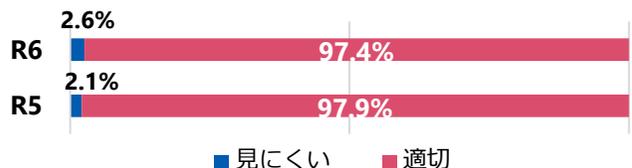
（全て単位は人。中学校を含む。）

## パンフレット

### 難易度

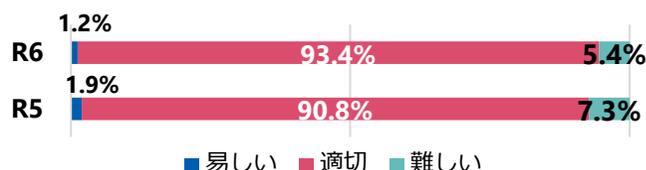


### 見やすさ

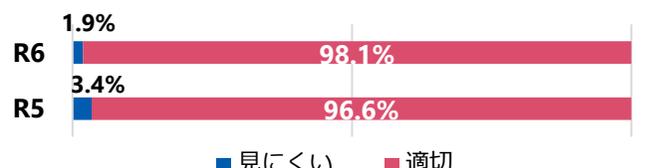


## 視聴覚教材

### 難易度



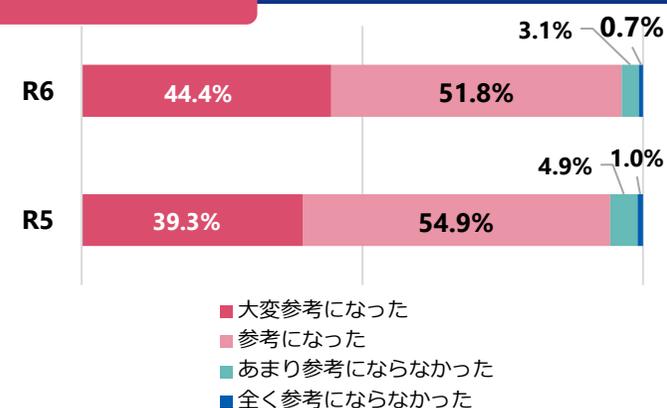
### 見やすさ



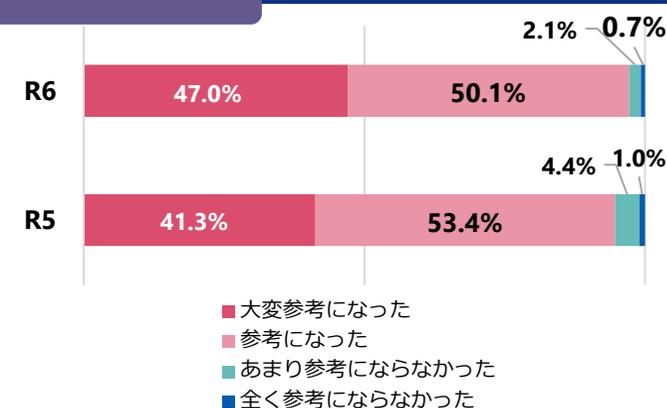
## 自由記述

- 参考になった
- 授業を行う際の参考資料として役に立った
- 指導の手引きを見なかった
- そもそも、急に送りつけてきて、現場にそんな余裕はない
- 授業で用いた資料がわからない
- B型肝炎などテレビCMで取り扱っている物を題材にしてはどうか
- 具体的な状況の動画や当時のニュース動画がQRコードなどで見られるとよい
- 1枚に係る情報量が多すぎて（文字も小さく、何が重要なのか）見にくく、わかりにくい。何をすれば、どうなるのか。また、何を訴えたいのか。表紙が暗すぎて、生徒に資料の提供ができない（暗い絵、内容に対して敏感に反応し、自分は不幸だと思ってしまう生徒がいるため）
- 内容が生徒の実態の段階別になると使用できるかもしれない。
- サリドマイド薬害など、今の生徒にはもう直接触れる事のない事件で、生徒の反応に風化している感じが教員側に伝わってくる。
- その他（教材内容ではない、施策に関するご意見）
- 特別支援学校では教え方が難しい旨のご意見（資料2参照）

## 指導の手引き



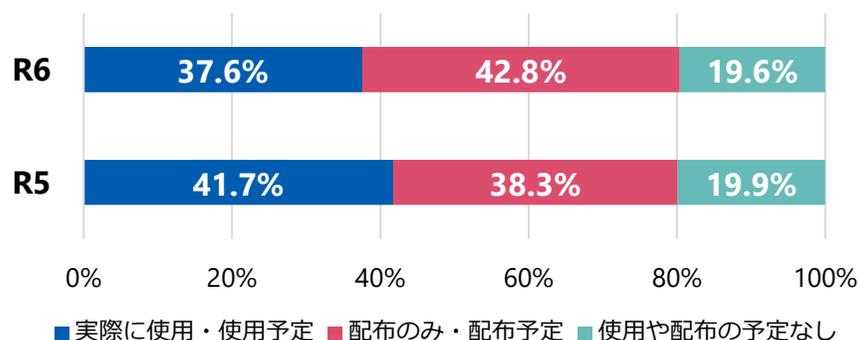
## 実践事例集



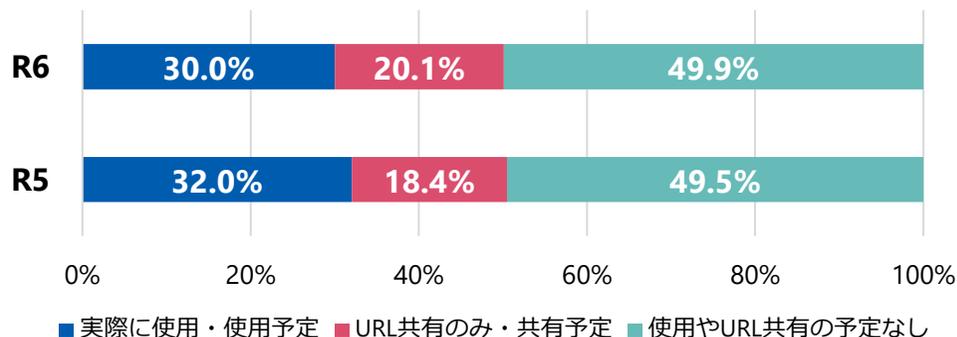
# アンケート結果（パンフレット・視聴覚教材の使用状況）

- パンフレット・視聴覚教材の使用状況については、昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。
- 他方で、実際に使用・配布・共有した教科を見ると、R5と同様に公民科（公共）と保健体育での使用が多いが、R6は①この2教科への集中がより進むとともに、②保健体育での使用が大幅に増加した。

## パンフレットの使用状況

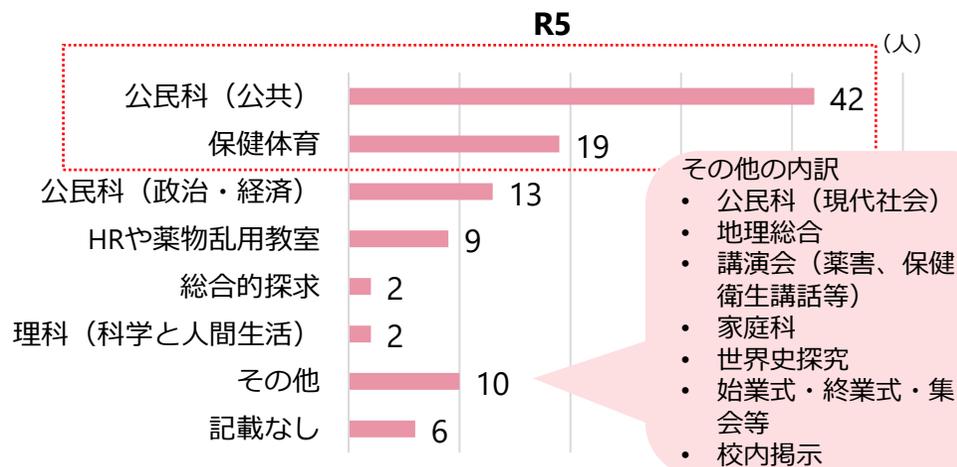
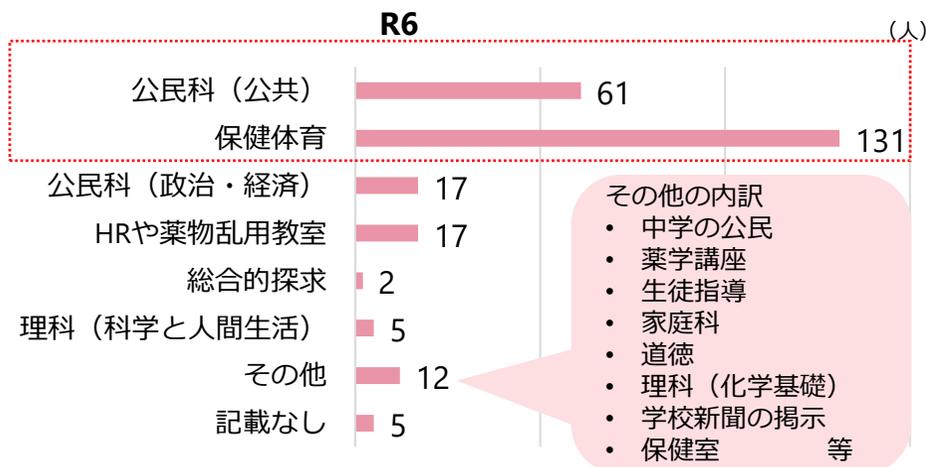


## 視聴覚教材の使用状況



## 教材を使用・配布・共有した科目

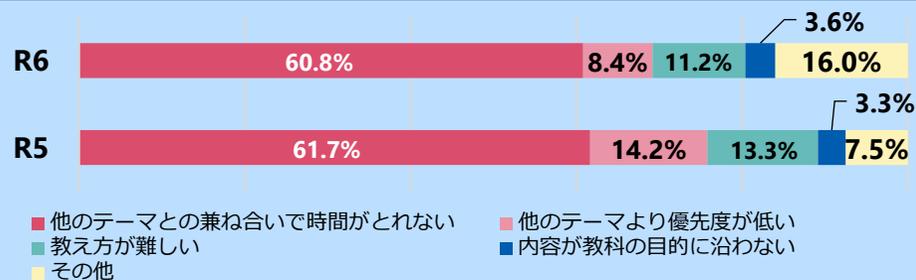
※ 1つの学校において複数の科目で使用している場合もあるため、重複回答があり得る。



# アンケート結果（パンフレット・視聴覚教材を使用しない理由）

- R5と同様に、パンフレットは「時間が取れない」、視聴覚教材は「視聴覚教材以外の内容を優先」との回答が多数。
- 「その他」の自由記述では、薬物乱用防止教育との混同も一定数見られる。

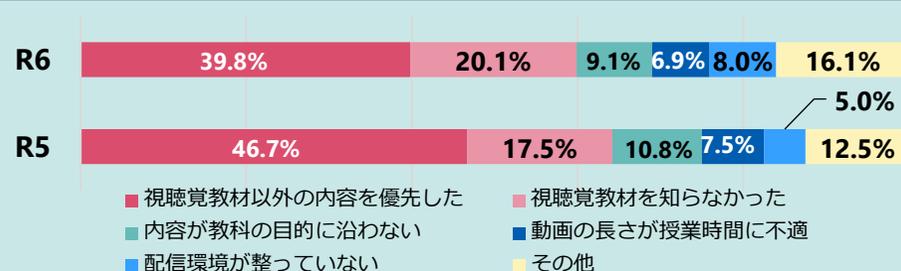
## パンフレットを使用・配布しない理由



### 「その他」の自由記述

- すでに実施済み
- 授業の補足として配布した
- HRで配付
- 授業後に参考として配布
- 口頭で説明した
- 教員独自に作成した教材が本校生徒に適しているため
- 毎年、全生徒向けに薬害に関する講演会を実施しているため
- 薬害教育は生徒指導の主催で講座を実施しているため
- 別の機会で講師を招いて学習している
- 倫理的な分野はすでに終了していたから
- 使用時間の確保が難しい
- 指導する時間がとれなかった
- 教科内の関連内容の説明で今のところ十分
- 教科書の内容を先に授業で取り扱っていたら、パンフレット等の中身をゆっくり見る時間がなくなってしまう
- パンフレットを使用した薬害教育を授業時間として、取り扱う余裕がない（教科書には記載されているものもある）
- 教科書の内容を中心に授業を行った
- 教科書の内容を取り扱い、定着させることを優先している
- 中学校で1部しかないため
- 使用のタイミングを検討中
- 回覧を行い、教職員への情報共有としては可能。回覧をするかは未定
- パンフレットが数多く全職員に配布されていないので職員に浸透されていないため、もっとPRをしていただきたい
- 薬害の授業の実施時期とずれているため
- 本校は単位制のため、高校1年相当の配布冊数では配布できない
- 保健の授業の内容で触れるため、全学年には行っていない
- 年間計画にない
- 薬物講話で全校生徒対象に警察の方に講演をしていただいている
- 他の薬乱防止指導を行った
- 薬物アセンブリーを開催している。
- 資料を用いて指導にあたる担当者がいない。
- また薬物乱用防止講話は全校生徒対象のため、資料の数が足りない
- 薬物乱用防止講話により、対応するのでパンフレットは必要性を認めない
- 特別支援学校では教え方が難しい旨のご意見（資料2参照）

## 視聴覚教材を使用・URL共有しない理由



### 「その他」の自由記述

- すでに実施済み
- 使用のタイミングを検討中
- パンフレット配付に合わせて、クラウドでURL共有
- 授業後の生徒各自の復習教材として使用
- 教員独自に作成した教材が本校生徒に適しているため
- 別の機会で講師を招いて学習している
- 毎年、全生徒向けに薬害に関する講演会を実施しているため
- 倫理的な分野はすでに終了していたから
- 他テーマとの兼ね合いで時間がとれない
- 教科書で薬害に触れている箇所が少ししかないので、あまり時間を割けない
- 2単位授業で時間がとれない。かつて薬害について触れたことはある
- 使用する時間の確保が難しい
- 時間が確保できなかった
- 指導時間が確保できない
- パンフレットを使用した薬害教育を授業時間として、取り扱う余裕がない（教科書には記載されているものもある）
- 時間がとれない
- 校内で実施（活用）する時間がとれず、生徒各自で閲覧するように指導している
- 扱うための時間が取れなかった
- 授業時間との兼ね合いでパンフレットを使用し説明をした
- 使用教材やURLの紹介がされていないので職員に浸透されていない。もっとPRをしてほしい
- 視聴覚教材があることを知らなかった。次の学年の授業で是非使用したい。
- 共有の方法がわからない
- 本校生に必要性をあまり感じない
- 年間計画にない
- 指導内容と実際の整合性がとれない
- 生徒が取り組みやすいタイミングで学習できるようにするため
- タイミングが合わなかった
- 警察の啓発事業と抱き合わせてパンフレットのみ使用した
- 本校では外部機関を利用して薬物乱用防止教室を実施しているため
- 警察の方に薬物乱用防止の講演をしていただいたから
- 特別支援学校では教え方が難しい旨のご意見（資料2参照）

## その他自由記述①

### <好意的な意見>

- ・ 改訂されよりわかりやすくなり、大変参考になった
- ・ このままで良いと思う
- ・ 動画の教材が見られるのは、大変良いと思う。まだ、使用していないが、考査後の時間等を利用して伝えていきたい
- ・ 高校生にとって必要な知識なので、今後活用していきたい。資料は見やすい。
- ・ パンフレットを配布することで、生徒たちが薬害問題について知る良いきっかけとなった
- ・ 3年生全クラスを対象にしたLHR時（50分）に、人権教育として「薬害」を取り扱った。動画「薬害を学ぼう」は、内容が大変よく整理されていた。また、生徒の視聴および感想文記入の両方を合わせた学習時間としても適切。感想文を読む中で多くの生徒に薬害問題への理解の深まりが見られた。感想文の中には、個人の経験談として、薬害に関するソーシャルメディア情報を鵜呑みにせず、病院で確かな情報を得て、最終的に不安解消出来た内容のものもあった。

### <教材の使用状況について>

- ・ 大修館書店、保健体育の教科書123ページではサリドマイド薬害について詳細が書かれている。パンフレットでは3ページの「サリドマイド被害者 増山ゆかりさん」と5ページの「サリドマイドによる胎児の障害」について触れさせていただいた。また6ページの「社会の仕組みが上手く働くためには」についても触れながら授業で活用した。なぜ薬害は起こったのか、また薬害を起こさないために私たちはどんなことに気をつけるべきなのかなどを考えることで生徒も私も「深い学び」となった。
- ・ 保健の授業において活用した。
- ・ 保健の授業で活用していく予定。生徒の日常生活や将来の生活に生かせる内容を選んで、薬害について考えさせる授業を工夫したい。
- ・ 保健体育の授業で、薬物乱用の単元の時に参考になった
- ・ 保健の教科書に準拠した内容の動画を利用したいと思っている。これからも教材の提供をお願いしたい。
- ・ 12月以降の公共、または政治経済の授業で使用予定である。
- ・ 毎年、中学3年生の公民（消費者保護）の項でかなり詳しく授業している。「薬害を学ぼう」のパンフレットも生徒に配布し、理解を深める授業をしている。視聴覚教材があることを知らなかった。次回は視聴覚教材も使って授業をしたい。
- ・ LHRなどを通じて薬害教育を実施している。今年はそのほかに、厚生労働省の薬物乱用防止啓発事業事務に講演を依頼した。またパンフレットはホームルーム活動の中で、各担任より薬害教育に触れ、参考にさせていただいた。
- ・ 自分の経験なども含めて説明した
- ・ 本校は薬科大学附属の学校であるため、大学から講師（教授）を招き、独自に薬害の講演をしてもらう機会があり、その補助（事前学習用）教材として利用している。
- ・ 1年次の単元には、薬害がないので2年次の「09医薬品の制度とその活用」の単元にて配布・使用予定。
- ・ なかなか時間が取れなくて申し訳ない状態。配って、中身を一緒に読むという形だった、それでも初めて見る生徒もいたので、非常に手引きは役に立った。
- ・ 高校で今年は物理、地学を受け持っている。今後、担当科目の中で合致する単元があれば、利用させていただきたい。
- ・ 機会があれば、送付してほしい。利用したい。
- ・ 今後活用する予定であるが、指導の手引を活用し授業を展開していきたい。
- ・ 生徒に多角的な角度で考えさせるためにも、複数の発行元資料は必要だと考え活用させていただいている。
- ・ 世界中で、過去に多数の重大薬害事件が発生している。今年になって、薬害事件が繰り返し取り上げられているが、依然として薬害事件が後を絶たない。国民が、いつ薬害に出会うか分からないというのが実情。こうした世相を受けて、今回、人権問題として卒業を控えた3年生対象に、薬害問題を企図した。動画では、薬害対応について、項目ごとに視聴者にも、質問を投げかけながら展開する形になっている。この技法により、生徒にスモールステップで考えさせる時間が生まれ、理解を深めるのに効果があったと思われる。研修担当者としては、今後、日進月歩で創出される新薬対応など、薬害への認識を、折に触れて深めていく必要性を痛感した。動画内容は、薬害の種類、薬の法的根拠、薬害事例、被害者の実話など、複合的構成であり、それぞれにおいて事の重大さに気づかされ、学びを深めることが出来た。最後に、学校現場への情報提供のみならず、障害を一生背負っていく被害者本人や家族への公的支援政策の充実を、日本政府に対しては切望する。
- ・ 送付されたので、使用する
- ・ 学校薬剤師に研修会を実施してもらい配布した
- ・ 教員だけでは、扱いつらい内容なので、講師派遣や学校薬剤師との連携などを検討していきたい。

## その他自由記述②

### <学校現場の現状から、教材の使用等に課題を感じている意見>

- ・ 薬害だけでなく、主権者教育や税制度教育など、高校の公共分野で通常の教科書内容に加えて扱うにはあまりにも内容が多すぎるため、教科書の内容を精選して最初から教科書に組み込むなど工夫が必要。現場の忙しさや扱い内容の多さを考慮していただきたい
- ・ 生徒が学ぶ必要がある内容で、とても分かりやすい資料だった。ただ、薬害以外にも学ぶことがとても多く（指導要領に基づいた学習内容など）、時間の確保が課題となっている
- ・ 資料自体は良いもので、教養も身につくと思うが、どうしても授業が一杯一杯になっている中、追加での授業は現実的に非常に厳しい状況。今年度は使用せずで記入させていただいた。
- ・ 内容は、大変充実しているが、使用する時間の確保が難しく、十分活用できない。
- ・ 授業時間確保が難しいなかで、扱うテーマとしては優先順位が下がってしまう。配布するにも部数が中途半端であること。内容が難しく、細かすぎるので、配布しても生徒は見ないし、最悪延々と教室のあちこちに散らばるだけになってしまう。対象となる授業生徒分の冊数が最初からあれば配布は可能。
- ・ いつもありがたいが、他にすべきことが多く、後回しになってしまっている現状。来年度はぜひ、検討したい。
- ・ 高等学校の教科・科目との関連が難しい。また、中途半端な知識で教えることに対して抵抗があり、指導が徹底できない。
- ・ 薬害本来の恐ろしさがメインなのか、社会的背景がメインなのか、使用するにあたりどの教科でどう使うかが困った。
- ・ 保健の授業で活用したが、他教科と連携が取れなかった。教科を横断して実施方法が今後の課題である。
- ・ 情報の伝達には適切な教材。授業で使用するのは、選択や考察や発表などがいくつか用意されているとよい授業展開になるかもしれない。
- ・ 授業内での扱い、及び学年や全校による集会形式での扱いを考えるのであれば、それらの計画立案に合わせる必要があり、遅くとも前年度の3学期には教材として手元に置いておきたい。
- ・ 各担当者が授業の予習として使用のため参考にする度合いは授業担当・学年により異なる。
- ・ 「主に公民科（公共、政治・経済）や保健体育科において活用を」とのことだが、二段階経ないといけない。一段階目は学校に届いた教材が何科に回るか、二段階目は教材が届いた教科でいつ実施するか。送る側としては、教科限定よりは「公民科や保健体育科」との書きの方が穏やかに思えるかもしれないが、受け取る側からすると教科の譲り合いにもなりかねない。また、教材が7月に届くと、残りは2学期か3学期かでの実施ということになる。年度の始まりの段階で年間を見通した計画を立てることからすると、3月末や4月頭の到着の方がよいのではないか。しかし、その時期は異動の時期でもあり、せっかく送っていただいた教材が所在不明になるおそれも懸念されるため、難しいところではある。「この教科の教科書でいうとここで使えるのでは」という案内などがあれば、使ってみようかという気持ちになるかもしれない。
- ・ 本校（特別支援学校）の生徒には内容が難しかったため、使用しなかった。
- ・ 特別支援学校では、内容が難しくパンフレット等の使用はなかった。薬害については、保健所職員に來校いただき、簡単なスライドを用いて学習を行った。また、薬を使用しなければならぬ生徒や薬をしたほうがよい生徒もおり、薬害についての指導は慎重に行っている。
- ・ 以前から知らせていただいていたのだろうと思うが、私の仕事が精一杯で、薬害のことを勉強することが出来なかった。今回新たにお知らせ頂き、少しだが、パンフレットや動画を観た。特別支援学校の生徒でもある程度は分かる内容だが、時間的には長いのと理解が難しい内容があるので使用ができていない。また、少し工夫したら授業でできるかもしれないし、小学1年生くらいの生徒さんに伝えられるような内容で作ってもらえたらありがたい。何度も繰り返してお知らせしていただけたので、ありがたかった。

## その他自由記述③

### <教材のデザインや内容、配布方法や配布時期についての意見>

- 文字が多かった
- 全体的に「見やすさ」を重視してほしい。印刷屋に依頼して、「薬書を学びたくなる」ようなデザインに全面改訂していただければ、生徒の関心も引き付けるきっかけになると思う。
- 関係者にはそれぞれどのような役割があるか、国がB薬の製造がCなどA B C Dの意味がわかりづらい
- 通信制の学校のため、生徒にデータ資料（PDF）を配付することは可能だが、それを見ることによって、不安になったり、反応を起こしてオーバードーズの引き金になる可能性もあることを恐れ、基本、学校に登校する生徒に自由配付という形しか取れない現状。せめて、見やすく表紙も多少明るくデザインしていただけたら、ありがたい（どちらかという、小中向けでよい）
- 視聴覚教材を共有するのであれば、パンフレットにQRコードを印刷すれば見たい生徒は見られると思う。現在のパンフレットにも3つのQRコードがあるが、それを見るだけで十分ではないのか。
- 動画編集されたDVDや、YouTubeで観ながら学ぶことが出来ると使いやすいと思われる。中学・高校生向けの身近な事象を参考に、（身近な地域での犯罪事例）を紹介してほしい。
- 公民教科書内容に、近づけていただくと「社会科」では、使い易くなる
- 来年度も実施するのであれば、保健体育の授業で活用するように依頼していただきたい。
  
- 今年1年生を対象に講師を招き「薬物教室」を実施し資料を配布している。教材がデータになると社会や保健体育の授業でも活用できるタイミングが増えて良い。
- パンフレットを授業内で取り扱う時間の確保が困難なため、短時間の動画と簡単なワークシート等がセットになっていると取り扱いやすい。パンフレットを廃止し、同内容PDF資料の配布でもよいのではないか。
- 実施事例集や指導の手引きなど、教育実習生にも活きる物なので、凄く助かった。ただ、パンフレットはSDGSの観点からも、配布用（紙面）かデータかのどちらかを各校の実情に合わせて、選択できるようにしても良いのではないか。全て紙面だと資源が無駄になるかな、とも感じた。
- せめてデータにしてほしい。紙を送りつけられても邪魔でしかない。配布するにせよ処分するにせよ時間がかかる。時間的にも物質的にも資源の無駄でしかない。
- 適当に配布されても、使えない。資源の無駄。
- 視点はとても素晴らしいと思う。現在オーバードーズの生徒もいるので身近な中で薬害について生徒も教職員も考えられる教材を提示してほしい。また教職員がそれぞれの教材が手にとれるよう電子媒体ではなく紙ベースとして冊子で各校に配布してほしい。
- パンフレットは写真や絵が豊富で大変見やすく、また最終ページには相談機関も掲載されており薬物乱用防止のパンフレットとして優れた教材だと思う。ただ、その日にしか使わない。隔年ごとの発行にし、例えばクリアファイルなど、毎日生徒が使用する物に印刷する形にすれば日常的に目に触れて啓発が継続されると感じた。
  
- 今回このような教材があることを初めて知った。夏季休業中に学校の届けられたが、公共の該当テーマの授業は1学期中に終わっており、簡単な説明をして配付するに止まった。もう少し早く届けてほしかった。
- その年のいつ頃にこのパンフを配るからという連絡を先にいただければ、単元計画も変更可能。しかしながら、単元的に遠いところを指導中だと、間に入れるのは難しい。しかしながら、薬害については確実に触れている。